

# 豚が田んぼを守る！ ということ？

生活協同組合の仕事    安全・安心な商品開発の仕事    農業を守る仕事

pal\*system  
生活協同組合連合会  
https://www.pal-system.co.jp/

トンカツや豚のしょうが焼きなど、おいしくて栄養もある豚肉。豚を育ててお米作りを守る取り組みがあります。畜産農家と米農家とともに取り組んでいるパルシステムに教えてもらいました。

## A えさ用のお米で育つ豚のお肉「日本のこめ豚」のおかげで、日本の主食を支える田んぼを残せるんだ。

パルシステムの「日本のこめ豚」（こめ豚）でカギとなるのが、家畜のえさ（飼料）となる飼料用米です。豚がおいしく育つ上に、地域や日本を元気にする良いことが詰まっています。



「飼料用米」がカギなのじゃ。

◀こめ豚は出荷前の約2カ月間、飼料用米を40%配合したえさで育てる。「脂があっさり」など豚肉の味わいも好評

パルシステムは、安全・安心な商品開発を通して、社会課題の解決に取り組んでいます\*。

環境を守り、地域や社会を豊かにしたい。「こめ豚」の開発も、この思いが原点です。

パルシステム職員

## こめ豚で農家を救え！ 挑戦者たちの開発物語

2006年、日本の食料自給率が40%を切り、米農家や畜産農家はさまざまなピンチに直面していた

※食料自給率とは、国内で必要な食べ物をどれだけ国内生産（自給）できているかを表す指標

2006年は39%

米農家    畜産農家

米離れてお米が売れない。田んぼを続けられるか……

輸入飼料が値上がりして困った……

食料自給率が低いと、世界で食料不足になった場合に、日本にも影響が……

パルシステムでは前から考えていたお米を飼料にするのはどう？

いいね！日本の農業を守れるね！

飼料用米の特長

- 食料自給率が上がる
- 減反政策で転作地・休耕田となった田んぼを蘇らせる
- 輸入飼料の価格高騰時に困りにくい

いざ行政や米農家に提案へ

飼料用米は安いから、つくっても儲からないよ

大切なお米を豚のえさにするなんて……

米農家 A    米農家 B

そんなとき……

2006年、秋田県で飼料用米配合の取り組みスタート

2011年3月、東日本大震災では輸入飼料の供給がストップ！

JAと米農家さんが協力してくれた。国産の飼料用米を豚に食べてもらおう！

飼料用米のおかげで豚が餓死せずに済んだ。国内で生産できる飼料用米は大切だ

豊下さん

2011年10月、こめ豚のお届け再開。2015年にはお米の配合率30%に

お米 30

※配合率は飼料全体に占める割合

2021年、コロナ禍で飲食店が休業し、お米が全国各地で余る事態に

田んぼを未来に残すために、配合率を上げよう！

豊下さん

2022年4月、配合率40%に

お米 40

※配合率40%のえさで育った豚はモニタリング調査で肉がおいしいというデータがありました。

こめ豚でみんなが笑顔に

お米が安定して使われているおかげで米作りが続けられた！

米農家    畜産農家

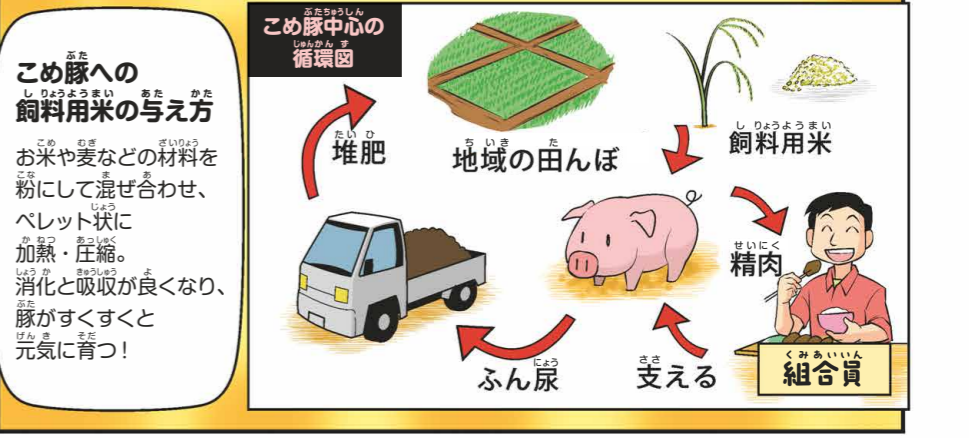
下の循環図は飼料用米を活用した日本型畜産\*のしくみだね！

輸入飼料の価格高騰に振り回されすぎず、豚に安全・安心なえさを与えられる！

\*地域で自給できる畜産。

こめ豚がのびのび育つ「アニマルウェルフェア」

こめ豚は、動物がストレスなく快適に育つように配慮した「アニマルウェルフェア」（動物福祉）の中で育ちます。広くて怒がある養豚場でのびのびと過ごし、命を大切にしてくれています。



「食を守る」ことはとっても大切！

答えてくれた人    パルシステム生活協同組合連合会 産直事業本部 畜産課 幸島 沙久良さん

本当においしくて大好きな商品です！

飼料用米

パルシステムでは「日本のこめ豚」のように、おいしさだけでなく生産者のことも考えた持続可能な商品開発を行っています。人は食べ物がないと生きていけません。食べ物は当たり前にあるわけではなく、生産者が作り続けられなくなったり、輸入が止まったりするとなくなってしまいかもかもしれません。そこで今から消費の仕方を消費者も一緒になって考えることで、自分を含めた大切な人の「未来の食を守る」ことにつながると思っています。また、生産者の想いなど商品の裏側を知ることによって商品をもっと好きになること間違いなし！です。

\*パルシステムは、生産者と協力して食料の自給と安定をめざす「食料・農業政策」と、つくる人も食べる人も社会も豊かにすることをめざす「産直政策」という2つの目標を掲げています。

※年配の農家の中には、家畜にお米をやることに抵抗感のある人もいた。